

5年 わたしの地図活用

空港は空の港だ

～貨物輸送ターミナルとしてのもう一つの顔～

千葉県 松戸市立六美小学校 大野 寿

1 はじめに

産業やわたしたちのくらしは、輸送などの物流によって支えられている。今日では、高速道路の整備によるトラック輸送が圧倒的に主流となっているが、輸送手段の一つとしての航空輸送もまた重要な役割を果たしている。貨物取扱量のシェアでは少ないものの、着実にその需要を伸ばしてきた航空輸送。これを授業で取り上げることで、航空輸送の必要性や重要性について気づかせながら、社会的な見方を身につけさせることができると考える。児童のイメージでは、飛行機による輸送といえばほとんどが旅客輸送であり、貨物輸送の手段としての航空機や空港の役割を知らない。貨物専用機の存在や空港の貨物ターミナルとしての別の顔を知る驚きを学習の動機づけとすることで、航空輸送について意欲的に調べさせ、考えを深めさせていくことができる。

2 日本に空港はいくつある？

菊の切り花を取り出し、児童に問いかける。「先ほど、この菊の切り花を学校の近くの花屋さんで買いました。沖縄県で栽培されたものだそうです。実は、昨日沖縄の花畑から切り取って出荷されたものなのだそうです。」児童の驚きに続けてすかさず「どうやって運んできたのだと思いますか？」と投げかける。ほとんどの児童が飛行機を使ったのではないかと推測する。そのとおり航空機であることを告げ「ところで、日本国内に空港は、いくつぐらいあると思いますか？」と問いかけ、話題を航空輸送へとつなげていく。成田国際空港(成田空港)や東京国際空港(羽田空港)と実際に航空機を使って旅行経験のある児童が北海道や福岡、沖縄の空港の名を挙げてく

る。そこで、実際に『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』(以下、地図帳) p.68④「空港とおもな航空路」で空港の数を確認させると、90か所以上という予想外に日本国内の空港が多いことに気づき驚く。しかも、空港は北は北海道の稚内空港から南は沖縄の与那国空港まで、日本全土に広がっていることやほとんどの都道府県に空港があることにも気づくことができる。つまり、日本国内には、空港と航空路が整備されているということを理解させることができる。

3 飛行機は何を運ぶ？

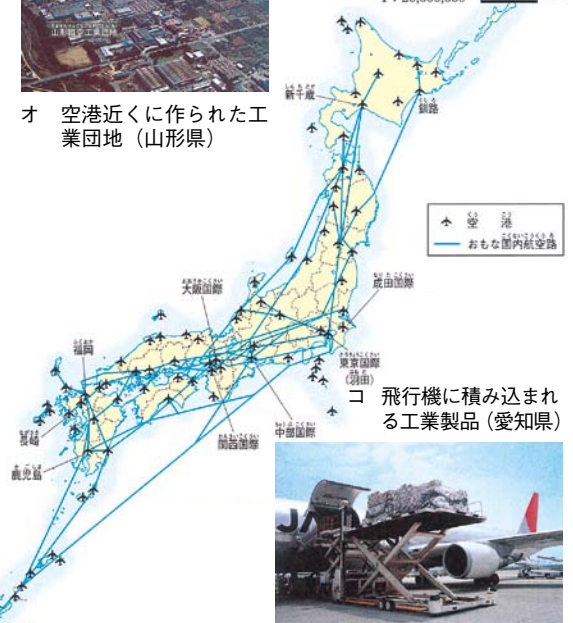
「みんなが知っている航空機って人を運ぶものですよ。」と確認するように児童に問いかけると、先ほど冒頭で述べた菊の切り花のことが頭をよぎり、物も運んでいるのではないかという意見が出される。そこで、地図帳p.68「コ 飛行機に積み込まれる工業製品」の写真で物流手段としての航空機を確認する。さらに貨物専用の航空機があることを写真や映像などで確認し、航空機は旅客輸送と貨物輸送の二つの顔をもっていることを知る。



オ 空港近くに作られた工業団地(山形県)

④ 空港とおもな航空路

1 : 20,000,000 0 200km



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.68

4 飛行機はどんな貨物を運ぶのか？

「航空機で花を運べることはわかりましたね。では他には何を運んでいると思いますか？」という質問について、グループで話し合い活動（言語活動）をさせる。その際、飛行機輸送の特徴（メリットとデメリット）を確認させる。①時間をかけずに運ぶことができること。②費用が他の輸送手段と比較して割高であること。この二つをヒントにして考えさせる。すると、菊の花のように鮮度を損なわないように早く運ばなければならないものだろう。また、費用がかかるなら重さが軽くて費用が安く済むものではないか。という予想が児童から挙がった。実際に学校図書館の資料やインターネットを使って調べていくと、精密機械や花き、魚介などがあることがわかり、先に確認した航空輸送の特徴と合っていることに自然と気づくことができた。

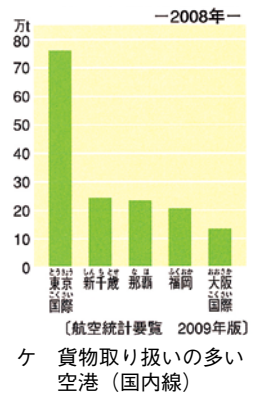
5 ICは、どこで作られて空港に？

航空輸送の貨物の一つにIC（集積回路）を挙げてきたグループがあり、すかさず持ってきた実物で確認しながらICについて説明をする。そして「ICを取り扱うということは、ICを作っている工場はどこにあるのでしょうか。地図帳で確認してみましょう。」と告げ、地図帳p.19～20の九州地方のなかからICの地図記号を探させる。鹿児島、熊本、大分と競うように次々と発見し喜ぶ児童であったが、そのうち児童はあることに気づくことになる。「あれ、ICの地図記号は空港の近くにある！」九州地方以外でもそうであろうかと地図帳p.68の③工業の分布と④の空港の位置を見比べさせ、他の地域も同様であることを確認する。そこで、先に学習した原材料輸入に適した港の近くに製鉄工場があることや高速道路の近くに自動車工場や関連工場が多いことを思い出させる。すると、空港の近くにICの工場が多い理由にも気づくことができた。そして、地図帳p.68の「オ 空港近くに作られた工業団地（山形県）」の写真

でその様子を確認する。

6 貨物の取り扱いが多い空港はどこ？

次に「貨物の取り扱いが一番多い空港（国内）は何空港だろう？」と投げかけ、新千歳空港（北海道）、東京国際空港、大阪国際空港、福岡空港、那覇空港（沖縄）の5つの空港をカードで提示する。ランキング形式にして1位を予想させると、やはり東京国際空港が1位であるという予想が最も多かった。そこで地図帳p.68「ケ 貨物取り扱いの多い空港（国内線）」のグラフで順位を確認する。1位が東京国際空港であったことを確認し「やっぱり」という声の中、その取り扱い量が他の空港に比べて3～4倍ととても多いことに気づき驚く。2位新千歳空港（北海道）、3位那覇空港（沖縄）と東京国際空港との地理的關係や、東京国際空港は出て行く貨物



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.68

より入ってくる貨物の方が多いというデータを紹介することで、物が東京国際空港に集まっていることを知る。つまり、航空貨物の拠点（東京国際空港）であることを知り、そこから航空貨物以外のすべての物流の拠点も同様に東京であることに気づく。

旅客輸送の手段としてとらえていた航空機や空港が、貨物輸送としてのもう一つの顔をもっていることに児童は驚きであった。これらの驚きが、児童の知りたいという意欲をかきたて調べ学習への動機づけとなった。この学習で飛行機の貨物輸送の現状を知り、そこから航空輸送が産業の発展に果たす役割やわたしたちのくらしにとって重要であることを認識することができた。そして、航空輸送が物を運ぶという目的に対して有効な手段となっている、この一つの社会的現象を通して、社会的な見方を身につけることができたと思う。